

経営比較分析表（平成30年度決算）

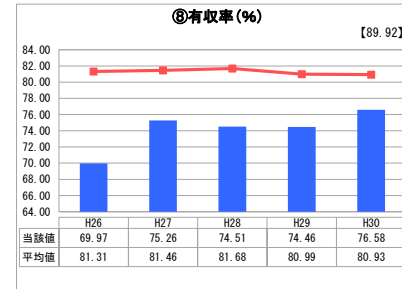
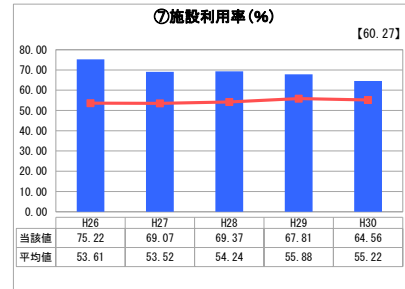
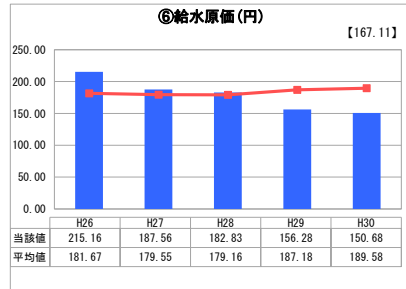
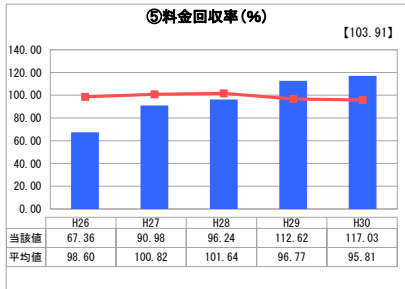
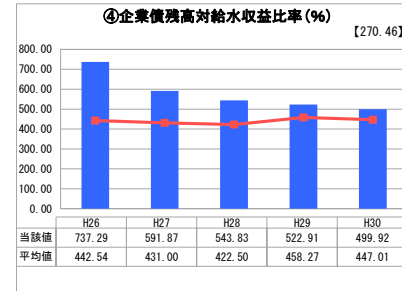
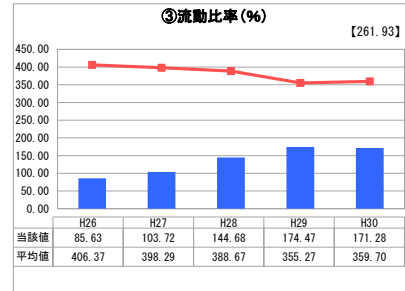
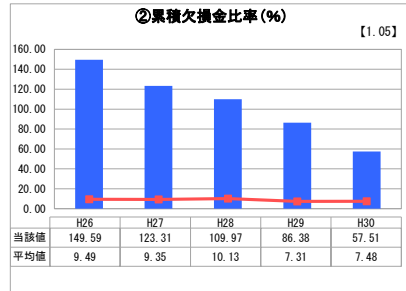
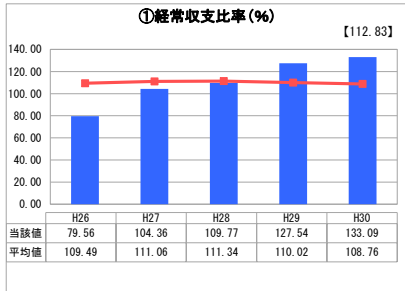
三重県 紀宝町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A7	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	44.74	96.59	3,120	

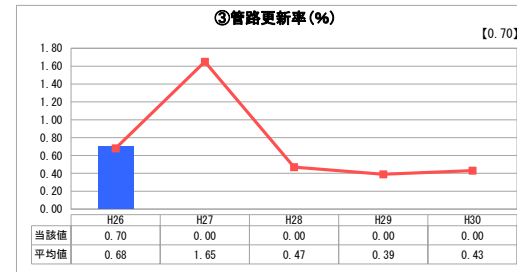
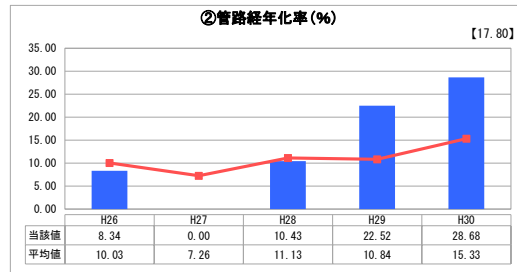
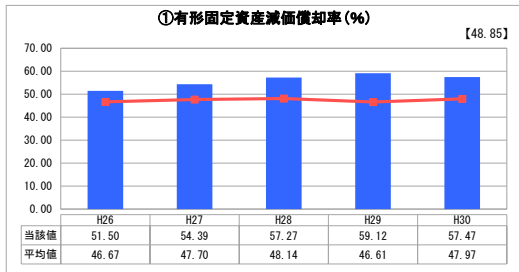
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
11,054	79.62	138.83
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
10,567	15.86	666.27

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

平成27年度に料金改定を行ったこともあり、料金改定以降は経常収支比率は100%を上回っており、料金回収率も改善が見られた。しかし、減価償却費の減少も要因となっていることから、今後施設の更新にかかる財源などを確保する為にも、経営改善に向けた取組を継続していかねばならない。累積欠損金比率は減少しているものの、まだまだ有している状態であり、0%となるよう経営改善を図っていく必要がある。

流動比率においては100%を上回っているが、類似団体と比べると平均値を下回っている。企業債残高対給水収益比率は少しずつ改善してきているが、類似団体の平均値には至っていない。施設利用率については、余裕があり特に問題はないと思われる。

有収率は昨年と比べ若干減少しており、また、全国平均、類似団体と比べてもまだ低い状態にある為、有収率のさらなる向上に努めていかなくてはならない。

2. 老朽化の状況について

H27年度の管路経年化率及び管路更新率は、入力誤により0となっているが、管路経年化率は10.02%、管路更新率は0.30%である。

有形固定資産減価償却率が高く、資産の老朽化が進んでいる状況であるが、施設を更新する財源の確保が難しい状況である。

創設から40年が経過し、管路経年化率が大きく増加している。H28年度以降管路更新率0%と更新が行われておらず、管路の老朽化は進行しているが、管路を更新する財源の確保が難しい状況である。

全体総括

平成27年度に料金改定を行ったことにより、料金改定以降は経常収支比率は100%を上回っており、累積欠損金比率も減少してきている。今後とも費用の抑制及び収益の確保において改善を行い、累積欠損金比率を0%に近づけるよう努める。

有収率についてもさらなる向上の為、効率的に漏水修理を行っていく必要がある。

施設及び管路の老朽化が進んでおり、計画的な更新が必要であるが、財源の確保が難しい状況である。